

5月の安全運転のポイント 平成2年5月号

風薫る5月は、風を切って走る二輪車にとって絶好のシーズンであり、これから夏にかけて二輪車の通行量も増えていくと予想されます。その一方で、二輪車との事故は、重大な人身事故につながるおそれがあります。そこで今回は、二輪車との事故を防止するためのポイントを考えてみることにしましょう。



二輪車との典型的な事故パターンと事故の要因

右折時に直進二輪車と衝突

特に対向右折車があるときや、対向車から道を譲られて右折するときには事故が発生しやすくなります。

【事故の要因】

- ・二輪車は車体が小さいため、四輪車のドライバーは二輪車の速度を実際よりも遅く感じたり、距離を遠くに感じて、二輪車が接近していても、自分のほうが先に行けると誤った判断をすることがあります。
- ・二輪車は対向車の死角に入りやすいため、見落とししたり発見が遅れがちになります。



左折時に左側方の二輪車と衝突

交差点の左折時だけでなく、道路外施設に入るために左折するときにも発生します。

【事故の要因】

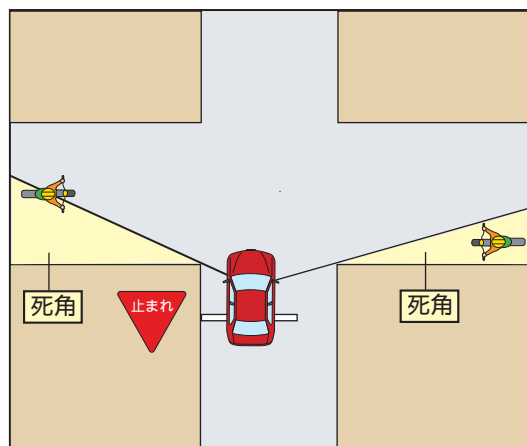
- ・左折のために左側に寄る際に、左側方や左後方の安全確認を怠ったり、サイドミラーだけの確認で済ますと、二輪車を見落とししてしまいます。
- ・サイドミラーには死角があり、左側の二輪車が映らないことがあります。

見通しの悪い交差点での出会い頭事故

二輪車は狭い道路でも通行できるため、住宅街などの脇道から急に出てくることもあります。

【事故の要因】

- ・一時停止や徐行による安全確認が不十分だと二輪車を見落とししてしまいます。特に右方からの二輪車が道路端を走行してくると、死角に入りやすくなりますから、安全確認ができる位置でしっかり止まって、はっきり確認しないと見落とす危険があります。
- ・道路にミラーを設置してある場所でも、ミラーだけに頼ると、二輪車を見落とす危険性が高まります。



進路変更してきた二輪車との事故

二輪車 (特に原付バイク) は、道路の左端を走行します。道路の左端は駐車車両や水たまりなどの障害物も多いため、それを避けるために道路の中央に進路変更してくることがあります。

【事故の要因】

- ・左前方を走行する二輪車の進路の先の状況に注意を払わず、漫然と運転していると、二輪車の動きが予測できず、進路変更に気づくのが遅れてしまいます。





事故を防止するための安全運転のポイント

死角に隠れた二輪車を見落とさない

右折時に対向右折車があるときや、対向車に道を譲られて右折するときには、対向車の前方に出る前に、必ず対向車の側方から二輪車が接近していないかどうかを確認し、接近してくる二輪車を見落とさないようにしましょう。



左折時は自分の目で二輪車を確認する

交差点を左折するときや道路外施設に入るために左折するときには、左側方や左後方に二輪車がないかどうかを、サイドミラーだけでなく、直接自分の目で確認しましょう。



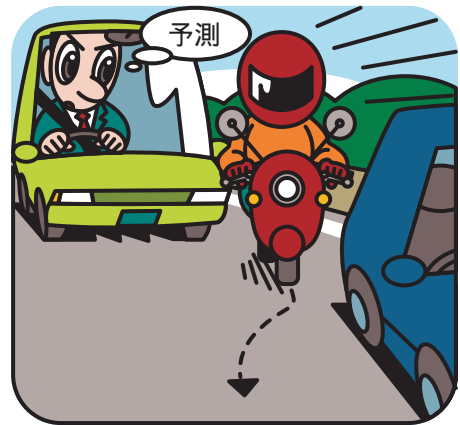
一時停止ではっきり確認する

一時停止の標識や標示のある交差点では、しっかり一時停止して、死角に二輪車がないかどうかをはっきり確認しましょう。また、一時停止の標識や標示のない場所でも、徐行をして安全を確認しましょう。



二輪車の動きを予測する

二輪車の前方に駐車車両等の障害物があるときは、二輪車の進路変更を予測して、スピードを落とし車間距離をとって、二輪車が進路変更をするのを待つようにしましょう。



二輪車に乗る方へのアドバイス

- ・他車から見落とされやすいことを理解して、特に交差点などでは他車の動向に十分注意しましょう。
- ・一時停止の標識や標示のある交差点では、必ず一時停止して安全確認をしましょう。
- ・進路変更をするときは早めに合図を出すとともに、必ず後続車の有無を確認しましょう。

「ご相談・お申込先」